**第18課 ヨシヤの改革 2018/5/6**

◎ 賛美(一同) :韓日465番、韓日340番 ◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : Ⅱ歴代誌34章1∼7節

◎ 本文朗読　◎ 主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

ヨシヤは偶像を崇拝したアモンの跡を継いで8歳という幼い年で王位に就きました。しかし彼は、神様のみことばに従い徹底してイスラエルの霊的更新を導きました。

**1. 神様の前で正直に行ったヨシヤ**

イスラエルの聖君であったダビデは王位をソロモンに譲り渡す時、“あなたの神、主の戒めを守り、モーセの律法に書かれているとおりに、主のおきてと、命令と、定めと、さとしとを守って主の道を歩まなければならない。”(Ⅰ列王記2：3)と頼みました。イスラエルの王たちはダビデの言葉を手引きとして、神様のみことばに従順する人生を生きなくてはなりませんでした。しかし南王国のほとんどの王たちはダビデの頼みに背き、その故に神様のさばきを受け、外的侵略を受けるなど国全体が大きな困難に陥るようになりました。

半面、ヨシヤはダビデの道を行い、右にも左にもそれることなく、一途な心でただ神様だけを仕えました。彼は神様の律法と教えと命令に従って神様が見られるに正しいこと、正しくないことを分別し、国の大小事を決定しました。そうしてヨシヤは第二のダビデというほめ言葉を聞くようになりました。神様のおきてを守ったヨシヤ王のように私たちもイエス様を人生の目的として置き、‘小さなイエス’という賞賛を受けて生きる神様の子供にならなくてはなりません。神様のみことばに従って生きる時、私たちによって大きな祝福と恵みが家庭と社会に満ちるようになるでしょう。

**2.偶像を取り除いたヨシヤ**

ヨシヤは20歳になりながら、本格的に宗教改革を始めました。一番先にバアルの祭壇、香の台、アシェラ像と刻んだ像と鋳物の像を打ちこわし、無くしました。長い間、偶像に仕えてきたユダの民たちがヨシヤの改革に抵抗したりもしました。しかし彼は大胆に改革を行い、全ユダとエルサレムを聖めました(Ⅱ歴代誌34:4~5)。ヨシヤ王が行った改革は、今日私たちの人生でも成されなくてはなりません。私たちの心の中には自分も知らない間に快楽の偶像、人本主義の偶像、物質万能主義の偶像のようなものが入ってきています。また自分自身が偶像となり神様が受けなくてはならない栄光を横取りする時があります。コロサイ人への手紙3章5節は"ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪

い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。"と言います。

私たちの心に占めている偶像は神様に尊く用いられるために、教会がリバイバルするために必ず取り除かれなくてはなりません。貪欲の偶像を取り除き、高慢と不従順の偶像、憎しみと不満の偶像、妬みと争いの偶像を取り除き、神様の前に純粋な信仰の祭壇を積む私たちになることを願います。

**3.神様のみことばに堅く立ったヨシヤ**

ヨシヤは即位18年に廃墟となった聖殿を修築しながら律法の書を発見しました。この本はイスラエルが失っていたモーセ五書でした。書記官シャファンがこの本を朗読する時、ヨシヤ王は自分の先祖たちが神様のみことばを守らずに、律法の書に記録された全てのことを行わなかった結果、神様の怒りがユダの地に臨んだことを悟りました。ヨシヤ王は神様の前で犯した罪について嘆き、悔い改めの意味で衣を引き裂きました(Ⅱ歴代誌34:18~19)。

さらにヨシヤ王は全ての祭司長、長老、民たちを呼び集め、みことばを読み聞かせ、みことばを守ることを命令しました。その結果、偶像崇拝をし、神様を遠く離れていた民たちはヨシヤが生きている間は神様から離れずに、みことばに従順して生きました(Ⅱ歴代誌34:31~33)。

悔い改め運動は、みことばを根拠として展開されなくてはなりません。神様のみことばは、生きていて力があります(へブル4:12)。みことばはいのちです。神様のみことばは心を喜ばせ、聖めてくれます。みことばある所には変化があり、奇跡が現れ、聖霊様が臨在されます。したがって、みことばを掴んでください。みことばを慕い求めて、黙想する聖徒になってください。みことばを通して神様と交わることで成熟した信仰人、力のある信仰人となって神様の人として用いられる私たち全てになることを祝福します。

**4. 過越を回復した王ヨシヤ**

最後にヨシヤ王は過越を回復し、全国民が過越意識に参加するようにしました(Ⅱ歴代誌35:1,5~6)。神様は430年間、エジプトで奴隷として働いていたイスラエルの民の呼び叫ぶ声を聞かれ彼らを解放させてくださいました。この時、神様は10の災いをエジプトに下されましたが、その中の最後の災いが、パロの息子からエジプトの全ての人の長子と動物の初子まで死んでしまう死の災いがありました。しかしその時、かもいと門柱に羊の血を塗ったイスラエルの家には死の使者が通りすぎました。この出来事をきっかけとして、イスラエルはエジプトから出てくることになり、神様はイスラエルを救われたこの出来事を記念するために過越を代々守るように命令されました。しかし、過越が士師時代以降しっかりと守られ

ていませんでした(Ⅱ歴代誌35:18)。過越を守れなかった長い歳月の間、神様の律法は無視され、神様の栄光は傷つけられました。ですからヨシヤ王は民たちに過越を急いで行うようにしました。この過越はイエス様の十字架の出来事を、過越の子羊はまさに全人類のためのあがないの血を流され死なれたイエス・キリストを表しています。したがって私たちもまた、罪と死から救われた霊的な過越を覚えなくてはなりません。御子を十字架に掛けられ死ぬようにされるまで、私たちを愛された神様の愛に感謝しなくてはなりません。霊的な過越を回復した私たちを通して神様のみことばがこの地の上に固く立ち、神様の栄光が全世界の上に満ちるようになるでしょう。

◎マナの要約

<神様の前で正直に行ったヨシヤ>

1.ヨシヤはダビデの信仰を見習い、神様だけに仕えた王でした。

2. 私たちも小さなイエスとなって、主が行かれる道だけを、従わなくてはなりません。

<偶像を取り除いたヨシヤ>

1. ヨシヤは南ユダに存在する祭壇を壊し、偶像を無くしました。

2. 私たちは心の中に存在する貪欲と不信、そして否定的な感情の偶像を取り除かなくてはなりません。

<神様のみことばに堅く立ったヨシヤ>

1.ヨシヤは神様のみことばを根拠として悔い改め運動を展開しました。

2. みことばを通して、神様と交わる時、神様の人として用いられる成熟したキリスト者になることができます。

<過越を回復した王ヨシヤ>

1. ヨシヤは士師時代以降、しっかりと守られていなかった過越を回復させました。

2.過越はイエス様の十字架の出来事を、過越の子羊は全人類のためのあがないの血を流されたイエス・キリストの型です。

◎ 私の人生のマナ

<隣の人と挨拶>

1. イエス様だけに従いましょう。　2. 心の中の偶像を取り除きましょう。

3. みことばによって私たちの人生を振り返りましょう。4. 主の十字架をいつも覚えましょう。

<祈り>

1. 問題が訪れた時、神様よりも先に頼るものがあるならば、それを告白し悔い改めの祈りを捧げましょう。

2. 神様を完全に信頼できないように妨害する私の弱さを直してくださいと祈りましょう。

3. 神様のみことばによって私たちの全ての否定的な考えを消してくださいと祈りましょう。

4. 私たちを救われたイエス様の十字架の恵みに感謝する祈りを捧げましょう。

<とりなしの祈り>　隣の人と祈りの課題を分かち合い、共に祈りましょう。